

0920 | 絵画 I

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師

授業の概要と目標

静物を描く。

物の見方や造形の考え方を学ぶ上で、最も普遍的なモチーフに静物がある。初めは、食物、植物の自然形態や器物等により、モチーフの造形的性格や意味を知り、また相互の組立てや構図構成を心ゆくまで追求することができる静物画を学ぶ。

通信授業、面接授業を通して、静物をモチーフに制作する。

課題の概要

○通信授業課題「静物」

1-1 植物、食物の自然形態に器物、布等を組み合わせた静物をモチーフにクロッキーする。

1-2 植物、食物の自然形態や器物、布等を組み合わせた静物をモチーフに木炭デッサンする。

1-3 植物、食物の自然形態に器物、布等を組み合わせた静物をモチーフとした油彩を制作する。

○面接授業課題「静物を描く」

1-1 植物、食物の自然形態に器物、布等を組み合わせた静物をモチーフに木炭デッサンする。木炭紙。描画材は木炭。

1-2 植物、食物の自然形態に器物、布等を組み合わせた静物をモチーフに油彩で制作する。15号キャンバス。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画 I・II 2019 年度』の「絵画 I」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」と第 2 章「油彩画の素材・技法と表現」を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（木炭デッサン）
第 2 日	午前：制作	午後：制作
第 3 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評
第 4 日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（油彩）
第 5 日	午前：講義・制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1 年次

[履修条件] なし

[備 考] 油絵学科絵画コース指定科目。

絵画コース進学希望者は 1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。

絵画コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

スクリーニング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『絵画 I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

0930 | 絵画 II

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師

授業の概要と目標

ここでのテーマは「美術史の参照」である。

美術の歴史の中には、人間を描いたものや、風景、静物、抽象画など、さまざまな絵がある。好きな絵や興味をもった絵がどのように成り立っているかは、実際に自分が絵を描いてみた時によくわかるであろう。

通信授業では、名画を参考にしたモチーフを作り、或いは探して、平面としての絵画性を探る。面接授業では、講座を選択し、自分の絵を描きながら自分と美術史との接点を見つけていく。

課題の概要

○通信授業課題「名画を参考に描く」

1-1 名画の造形的な特徴を分析し「人物」「風景」「静物」等、身の回りにあるモチーフによって実践的にクロッキーをする。

1-2 「1-1」をもとに、具体的にモチーフを設定し、エスキースによって実践する。また、参考にした作品名・作家名、注意点・考え方、感想などを 300～800 字で解説する。

1-3 「1-2」をもとに油彩で制作する。

○面接授業課題「名画を参考に描く」

1-1 自分の絵を描きながら自分自身と美術史との接点を見つけていく。「見て描く（人物 [裸婦]）」または「自由に描く（静物）」のどちらかを選択し、デッサン及びエスキースを制作する。B2 程度の画用紙、水彩紙、または木炭紙。描画材は鉛筆、コンテ、木炭等。

1-2 「1-1」と同じ選択で油彩を制作する。20 号キャンバス。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画 I・II 2019 年度』の「絵画 II」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 2 章「油彩画の素材・技法と表現」、第 5 章「名作を語る」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（エスキース）

第 2 日 午前：制作（デッサン） 午後：制作

第 3 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

第 4 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（油彩）

第 5 日 午前：制作 午後：制作

第 6 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

※ 上記の日程は、開講時期により異なる場合があるために、スクーリング持参物冊子を参照すること。

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2 年次

[履修条件] 「絵画 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科絵画コース指定科目。

絵画コース進学希望者は 2 年次に履修すること。絵画コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

「絵画 I」を同時に履修する場合は、「絵画 I」のスクーリングを先に受講すること。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『絵画 I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

0940 | 日本画 I

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

重政啓治教授、尾長良範教授、岩田壮平准教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星晃講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

日本画を描く上で必要な初歩としての基礎知識、素材と道具の種類、名称、扱い方を学び、日本画独自の材料である岩絵具、和紙、墨、筆、膠等に親しむ。

通信授業では、制作に必要なデッサンとして、モチーフの見方、観察の仕方、制作のためのデッサン法を学ぶ。面接授業では、日本画制作に取り組むことで、墨による骨描き、たらし込み、彫り塗り等の基本として日本画の表現法を学び、制作に必要な使用法を習得、準備から完成までを体験することで、制作手順及び素材の扱い方を知る。

課題の概要

○通信授業課題 1「デッサン」

- モチーフを良く見て観察し、画用紙に日本画を描くために必要な資料としての鉛筆デッサンをする。
- ・5種類の花をモチーフに部分的、クロッキー的、記録的な要素をふまえたデッサンをする。
- ・花をモチーフに、細密描写をする。
- ・季節の野菜や果物をデッサンする。

○通信授業課題 2「筆の使い方」

- 筆の使い方、特性を知ることが目的に日本画筆を用いてデッサンをする。
- ・筆を用いて黒で描く。
- ・筆を用いて彩色する。

○面接授業課題「日本画を描く」

- ・与えられたモチーフをもとに日本画絵具を使い、F15号以上の画面に紙本彩色を通して、用具の扱い方及び制作するための基礎となる準備から完成までの工程を行う。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『日本画 I・II 2019年度』の「日本画 I」、教科書『日本画・表現と技法』の「花を描く」をもとにした授業。

[面接授業]

第1日	午前：前提講義及び用具説明	午後：制作（デッサン）
第2日	午前：制作	午後：制作（大下図）
第3日	午前：制作（骨描き）	午後：制作（下地）
第4～5日	午前：制作（彩色）	午後：制作
第6日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1年次

[履修条件] なし

[備 考] 油絵学科日本画コース指定科目。

日本画コース進学希望者は、1年次に履修すること（2年次編入学生は2年次）。日本画コース3年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

学習指導書：『日本画 I・II 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

0950 | 日本画 II

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

重政啓治教授、内田あぐり教授、西田俊英教授、山本直彰教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星晃講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

風景をテーマに、自然と向き合いながらその美しさを体感し、自然の骨格を知ることで日本画の扱い方や表現方法を学びながら独自の視点で捉えた制作を試みる。

通信授業では、風景デッサンと日本画制作を行う。面接授業では、日本画制作を通して、小下図、大下図の作り方等の基礎的なプロセスをさらに深め、岩絵具の発色の工夫、支持体としての和紙、マチエール等、画面上で日本画の素材がもたらす効果を研究し、描き方としての基礎知識の再確認と、素材を十分に扱いこなす描法を習得する。

課題の概要

○通信授業課題 1「風景デッサン」

身近な風景をモチーフに、自己が美しいと思う場所を探し、画面の中にどの様に入れて描けば風景としての広がりや対象物の面白さが出るかを考え、次のテーマでデッサンをする。

- ・遠近感のある身近な風景のデッサンをする。
- ・興味深い場所や、特徴的な視点で選んだ対象をデッサンする。
- ・風景をモチーフに、色を用いてデッサンをする。

○通信授業課題 2「風景制作」

描いたデッサンをもとに小下図、大下図及び日本画絵具を使い、F15 号の紙本彩色による制作をする。

○面接授業課題「風景制作」

- ・風景をモチーフに写生と日本画絵具を使い、F15 号以上の紙本彩色による制作をする。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『日本画 I・II 2019 年度』の「日本画 II」、教科書『日本画・表現と技法』の「風景を描く」、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講議	午後：制作（デッサン）
第 2 日	午前：制作	午後：制作（デッサン・準備）
第 3 日	午前：制作（下図・トレース）	午後：制作（下地）
第 4～5 日	午前：制作（着色）	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

※ 学外見学あり。第 1 日、第 2 日に実施予定（天候等によっては変更する場合があります）

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2 年次

[履修条件] 「日本画 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] 油絵学科日本画コース指定科目。

日本画コース進学希望者は 2 年次に履修すること。日本画コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

「日本画 I」を同時に履修する場合は、「日本画 I」のスクーリングを先に受講すること。

教材等

教科書：『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

学習指導書：『日本画 I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

0960 | 版画 I

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

授業の概要と目標

版表現では、平、凸、凹、孔、の形式がある。それぞれ性質を異にするものであるが、版という共通の概念によって結ばれている。

通信授業では、拓摺り、紙版画という凸版の表現を中心に、試行する。凸がかたちづくる形象を紙へと写し取り、これを体感することで版表現の基礎として学習していく。拓摺りでは乾式と湿式の異なる方法を試行する事によって凸版の可能性を探り、紙版画の版制作では、レリーフ状の画面を作る。このレリーフの凸部を写し取る事によって表象される形態をいかに紙の上へ導き出すか、表現として取り組むことが前提にある。面接授業では、「木版」か「リトグラフ」のどちらかを選択し、その基本技法を習得する。版を使うことにより、まず造形的課題を明確にすることを目標にする。

課題の概要

○通信授業課題 1「拓摺り（乾拓・湿拓）とコラージュ」

1-1 任意の形に拓摺りし、台紙上にそれらを貼り合わせて作品を制作する。

1-2 拓摺りや印刷物を組み合わせてコラージュした作品を制作する。

○通信授業課題 2「紙版画」

2-1 紙版の制作とその拓摺りをする。

2-2 紙版画を制作する。

○面接授業課題「基本技法の習得」

1-1 「木版」「リトグラフ」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。

・「木版」イメージサイズ：22.5cm×30cm

・「リトグラフ」イメージサイズ：30cm×40cm 程度

授業計画

[通信授業]

学習指導書『版画 I・II 2019 年度』の「版画 I」、教科書『新版 版画』の第 2 章「拓摺り・コラグラフ」を参照して、制作を進める。

[面接授業]

・「木版」または「リトグラフ」（選択）

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第 2～5 日 午前：制作 午後：制作

第 6 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1 年次

[履修条件] なし

[備 考] 油絵学科版画コース指定科目。

版画コース進学希望者は 1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。版画コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（版画コース進学希望者を除く）。

教材等

教科書：『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012 年）

学習指導書：『版画 I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

0970 | 版画 II

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

授業の概要と目標

版画は直接的に紙やキャンバスなどの支持体に描くのではなく、「版」という媒体を使って間接的に絵を作っていく技法である。そこには様々な魅力や造形的発見があり、また「版」を用いることで造形上の問題点が明確化したりする。

通信授業では、「木版画による色見本」制作をとおして、摺り取られた図像の色や表情の多様さを知る。「板目木版」では、多くの素材、技法に触れて木版画の基礎を学ぶ。面接授業では、「銅版」か「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、その基本技法を習得する。版を使うことにより、まず造形的課題を明確にすることを目標とする。

課題の概要

○通信授業課題 1「板目木版による色見本」

1-1 「木版画による色見本」を制作する。

○通信授業課題 2「板目木版」

2-1 「板目木版画」を制作する。

○面接授業課題「基本技法の習得」

1-1 「銅版」「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。

・「銅版」イメージサイズ：15cm×18.2cm

・「スクリーンプリント」イメージサイズ：A4 程度、30cm×42cm 程度（各 1 点）

授業計画

[通信授業]

学習指導書『版画 I・II 2019 年度』の「版画 II」、教科書『新版 版画』の第 2 章「木版画」を参照して、制作を進める。

[面接授業]

・「銅版」または「スクリーンプリント」（選択）

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第 2～5 日 午前：制作 午後：制作

第 6 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2 年次

[履修条件] 「版画 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] 油絵学科版画コース指定科目。

版画コース進学希望者は 2 年次に履修すること。版画コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

「版画 I」を同時に履修する場合は、「版画 I」のスクーリングを先に受講すること。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（版画コース進学希望者を除く）。

教材等

教科書：『新版 版画』（武蔵野美術大学出版社 2012 年）

学習指導書：『版画 I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

0980 | プロダクトデザインⅠ

4単位（通信授業2単位、面接授業2単位）

牧野良三教授、河村要講師、桜井隆樹講師、萩原千春講師

授業の概要と目標

プロダクトデザインでは、求められる要件に対してテーマ設定をおこない、目標と計画とイメージを概念として組み立て、さらにイメージした概念を他者が経験できるように、機能と用途を根幹とした具体的な形態としなければならない。「プロダクトデザインⅠ」では、イメージした概念を具体化するプロセスで行うスケッチ表現、図面表現、モデル等の様々な表現について、それぞれの役割を学習し、その表現方法の基礎スキルの修得を目標とする。

課題の概要

- 通信授業課題1 [遠近法による立体造形の表現]
基本形態とそのバリエーション形態を遠近法（簡易透視図法）に則り、フリーハンドスケッチで表現する。
 - 予習課題 [花を愛でる器]のデザイン案スケッチ及び概略図面の作成。
 - 面接授業課題 [感性語（言語イメージスケール）から造形をイメージする／モデル制作]
予習課題を基に、「花を愛でる器」のデザインと発泡ウレタンによるモデルを制作する。
 - 通信授業課題2 [デザイン製図基礎／立体の基本形と三面図の表現]
基本形態の組み合わせによる造形展開を行い、スケッチと図面で表現する。
- *詳細は学習指導書『プロダクトデザインⅠ・Ⅱ 2019年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業1]

・透視図法の簡易的な表現方法を理解し、様々な視点で基本形態をフリーハンドスケッチで表現する手法を学習する。

[予習課題] *スクーリング時に持参すること。

・「花を愛でる器」のデザインとモデル制作のためのアイデアスケッチと概略図面を作成する。

[面接授業]

・予習課題のデザイン案スケッチを基に発泡ウレタンでラフイメージモデルを制作してから決定モデルの制作を行う。

第1日 前提講義、課題説明、予習課題発表、ラフイメージモデル制作

第2日 ラフイメージモデル制作、決定モデル制作用概略三面図の作図

第3日 モデル制作

第4日 モデル制作、プレゼンテーション、講評

OLP オンラインプラス [準備] ー面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

・オンラインプラス [準備] では、面接授業を受講する前の学習として、プロダクトデザインとしての立体造形の基本要素と感性に応える造形イメージの創作について解説する。

[通信授業2]

・図面を模写し、デザイン製図の基礎的表現方法を学習する。

・基本形態の組み合わせによる造形展開を行い、スケッチと図面で表現する。

成績評価の方法

通信授業と面接授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1年次

[履修条件] なし

[備 考] 工芸工業デザイン学科 生活環境デザインコース指定科目。

生活環境デザインコース進学希望者は1年次に履修する事(2年次編入学生は2年次)。

生活環境デザインコース3年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

オンラインプラス(Web上で行う面接授業補助プログラム)を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

教材等

教科書：横溝健志、田中克明他『プロダクトデザイン』(武蔵野美術大学出版局 2002年)

横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』(武蔵野美術大学出版局 2002年)

田中克明監修『プロダクトデザインの発想』(武蔵野美術大学出版局 2006年)

学習指導書：『プロダクトデザインI・II 2019年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年)

その他

- ・面接授業には教科書『ドローイング・モデリング』と『学習指導書』を必ず持参すること。
- ・面接授業において、立体造形のための素材として発泡ウレタンを使用するので、化学物質に対するアレルギーがある学生は、その旨、承知した上で研究室に申し出ておくこと。
- ・面接授業の作業に際し、発泡ウレタンの細かい粉末で汚れても構わない服装を考慮すること。

0990 | プロダクトデザイン II

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

牧野良三教授、河村要講師、桜井隆樹講師、渡辺来講師

授業の概要と目標

プロダクトデザインでは機能と用途を根幹とした道具の具体的な形態の造形と同時に感性に応える美しい造形も求められる。「プロダクトデザイン II」では道具の用途や構造、寸法と密接に関係する手の機能、動作と道具の関係を理解し、用途に適った使い勝手を探索する手法とプロダクトデザインとしての形態の創造と表現方法の修得を目標とする。

課題の概要

○通信授業課題 1 [手の動作と道具機能の関係を考察]

- ・道具の機能と用途と形態の関係を考察しレポートする。
- ・道具の機能と手の動作の関係をスケッチで表現する。

○予習課題 [ドアノブの調査レポートとデザイン案の作成]

- ・ドアノブの形状、寸法、手の動作と使い勝手および造形との関係について調査、分析しレポートする。
- ・ドアノブのアイデアスケッチと概略図面の作成。

○面接授業課題 [ドアノブのデザインとモデル制作]

- ・面接授業ではドアノブ操作性、認知性、快適性を探索し、スケッチによるイメージの表現からモデル制作までの具体的な形態にまとめ上げるプロセスとスキルを学ぶ。

○通信授業課題 2 [三面図と等角投影図から立体表現スケッチを描く]

プロダクトデザインの形態を構成する要素とその形態の成り立ちを理解し、立体を造形するプロセスとスケッチ、図面での表現方法を学習する。

* 詳細は学習指導書『プロダクトデザイン I・II 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業 1]

- ・機能の異なる道具を使う手の様々な使用状態をスケッチで表現する。
- ・道具の使い勝手を評価しレポートする。

[予習課題] ※ スクーリング時に持参すること。

- ・ドアノブのデザインを形状、寸法、手の動作と使い勝手および造形との関係について調査、分析のレポート。
- ・ドアノブのデザイン案スケッチと概略図面の作成。

[面接授業]

- ・予習課題を基に発泡ウレタンでラフイメージモデルを制作してから、決定モデルの制作を行う。

第 1 日 前提講義・課題説明、予習課題発表・指導、イメージラフモデル制作

第 2 日 イメージラフモデル制作、決定モデルの概略三面図の作図

第 3 日 モデル制作

第 4 日 モデル制作、プレゼンテーション、講評

○OLP オンラインプラス [準備] —面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

- ・オンラインプラス [準備] では、面接授業を受講する前の学習として、プロダクトデザインとしての立体造形の基本要素と感性に応える造形イメージの創作について解説する。

[通信授業 2]

- ・三面図から等角投影図と立体表現スケッチを描く。
- ・等角投影図から三面図を描く。

成績評価の方法

通信授業と面接授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2年次

[履修条件] 「プロダクトデザインI」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] 工芸工業デザイン学科 生活環境デザインコース指定科目

3年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

オンラインプラス（Web上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

教材等

教科書：横溝健志、田中克明他『プロダクトデザイン』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

田中克明監修『プロダクトデザインの発想』（武蔵野美術大学出版局 2006年）

学習指導書：『プロダクトデザインI・II 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

その他

- ・面接授業には教科書『ドローイング・モデリング』と『学習指導書』を必ず持参すること。
- ・面接授業において、立体造形のための素材として発泡ウレタンを使用するので、化学物質に対するアレルギーがある学生は、その旨、承知した上で研究室に申し出ておくこと。
- ・面接授業の作業に際し、発泡ウレタンの細かい粉末で汚れても構わない服装を考慮すること。

1000 | インテリアデザインⅠ

4単位（通信授業2単位、面接授業2単位）

牧野良三教授、足立正講師、奥村梨枝子講師

授業の概要と目標

私たちは、毎日様々な空間で暮らしているが、優れた空間は便利さや快適性に加え、時には、安らぎや安心感を与えてくれる。空間とは、そこに暮らす人、使う人、感じる人、すべての人の行為があって初めて空間として認識されるものである。

ここでは、我々の暮らしの起点となる身近な空間のデザインを通して、空間とは、機能とは、表現とはという空間デザインの基本的な考え方と表記の基礎を学ぶ。

課題の概要

○通信授業課題1「住空間のリサーチ」

普段なにげなく見過ごし、暮らしている空間を意識して独自に評価してみることで、“見る事”そのものがデザインの基本であることを学ぶ。

○通信授業課題2「空間製図とイメージスケッチ」

空間デザインを学んでゆく上で基本的な空間表記の基礎を学ぶ。

○面接授業課題「身近な空間のデザイン」

身近な空間の模型制作を通して、テーマ、コンセプト、プランニングまでの基本的な考え方を学ぶ。

授業計画

[通信授業]

○通信授業課題1「住空間のリサーチ」

写真と図面等で少なくとも3点以上の住空間をリサーチし、それぞれに独自の批評を加えて、レイアウトを含めたレポートを作成する（スケッチ可）。

○通信授業課題2「空間製図とイメージスケッチ」

面接授業で制作した身近な空間の制作意図、平面図、立面図（4面）、断面図、イメージスケッチを制作する。

[面接授業]「身近な空間のデザイン」

指定された空間を自由にイメージし、イメージに叶う模型を制作する。

第1日 オリエンテーション テーマ、コンセプト、プランの作成

第2日 モデル制作

第3日 モデル制作

第4日 モデル制作 プレゼンテーション 講評

OLP オンラインプラス [準備] 一面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

成績評価の方法

[通信授業] 評価軸を発想、展開、表現に分け、さらに総合的に評価する。

[面接授業] 上記に加え、制作プロセス（過程）を評価する。成績評価は総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1年次

[履修条件] なし

[備考] 工芸工業デザイン学科スペースデザインコース指定科目。スペースデザインコース進学希望者は1年次に履修すること（2年次編入学生は2年次）。スペースデザインコース3年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。スクーリング時に受講人数を制限する場合がある（スペースデザインコース進学希望者を除く）。

オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

教材等

教科書：寺原芳彦監修『インテリアデザイン』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
：横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
学習指導書：『インテリアデザインI・II 2019年度』
（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

その他

面接授業の中で、デザインや製図に必要な道具など基礎的な説明があります。空間デザインに関して初めての学生は、通信授業よりも先に面接授業を受講するのもよいかもしれません。

1010 | インテリアデザイン II

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

牧野良三教授、足立正講師、伊坂重春講師、竹中義明講師、奥村梨枝子講師、坂本周講師

授業の概要と目標

我々の暮らしを支える都市機能は、我々の求めに応じ様々な工夫がなされ、我々の暮らしを支えている。その重なりが街の個性となり、魅力となっている。

ここでは、人と空間と造形の関係を街の調査を通して明らかにし、その手法を学ぶことを目的としている。集い、憩い、楽しむ、といった都市空間に見られる様々な出来事を、観察を通して読み解き、それらを可能にする工夫がどのようになされているか、空間デザインの考え方をもう一步進めて、提案に至るまでの基本的なプロセスを学ぶ。

課題の概要

○通信授業課題 1「身近な空間のデザインサーヴェイ」※ 面接授業初日に持参すること。

課題図書の中から一点を選び、自分なりの評価をし、その手法に倣い地域の調査を行い、その成果を提出する。

○面接授業課題「デザインサーヴェイから学ぶ」

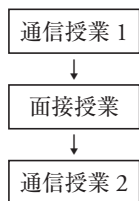
デザインサーヴェイを通して、都市空間の実態とその演出性を客観的に読み取り、その結果をデザイン的に表現する。

○通信授業課題 2「デザインサーヴェイから導かれる空間の設計」

面接授業の成果を踏まえ、地域の特性や人々の活動に配慮した具体的な空間提案を行う。

* 課題については学習指導書『インテリアデザイン I・II 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画



「インテリアデザイン II」は、面接授業を中心に通信授業課題 1（事前課題）→面接授業→通信授業課題 2（事後課題）の順で授業が構成されている為、上記の順序での取り組みが履修の条件となる。

第 1 日 課題説明 通信授業課題 1 の発表、講評 現地調査とワークショップ

第 2 日 現地調査とワークショップ 作品制作

第 3 日 作品制作

第 4 日 作品制作 発表 通信第 2 課題へむけての個人指導

○IP オンラインプラス [準備] 一面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

成績評価の方法

[通信授業] 評価軸を発想、展開、表現に分け、さらに総合的に評価する。

[面接授業] 上記に加え、制作プロセス（過程）を評価する。成績評価は総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2 年次

[履修条件] 「インテリアデザイン I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] 工芸工業デザイン学科スペースデザインコース指定科目。スペースデザインコース進学希望者は 2 年次に履修すること。スペースデザインコース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。「インテリアデザイン I」を同時に履修する場合は、「インテリアデザイン I」のスクーリングを先に受講すること。スクーリング時に受講人数を制限する場合がある（スペースデザインコース進学希望者を除く）。

オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

教材等

教科書：寺原芳彦監修『インテリアデザイン』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

：横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『インテリアデザイン I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

その他

学外実習（現地調査とワークショップ）あり。

1020 | グラフィックデザイン基礎Ⅰ

4単位（通信授業2単位、面接授業2単位）

白尾隆太郎教授、石垣貴子講師、木多美紀子講師、深澤涼子講師、山口弘毅講師、上田和秀講師、福井政弘講師、高崎葉子講師

授業の概要と目標

コミュニケーションのための有効な手段として発達してきたグラフィックデザインの総合的な基礎概念を把握し、その目的とさまざまな方法論を考察する。ここでは、「見ること」「伝えること」という具体的な事例を探求しながら、印刷メディアの登場から現在のマルチメディアに至る流れを学習する。特にグラフィックデザインを「自ら学ぶ」という姿勢と、見ること、観察することに重きを置き、科学的な理解のうえでの視覚的習熟を目的とする。

課題の概要

○通信授業課題1 色・形・構成1「オリジナル・パレット」

身近なところからさまざまな素材を色として採集。集めた物質としての色を基に、色を再現し、その関係性と構成を考える。

○通信授業課題2 色・形・構成2「動物園に行こう」

架空の動物園を想定してバナー等のデザインをする。動物の形態や色彩構成を考える。

○面接授業課題

・ピクトグラム [歩く・走る・跳ぶ]

講義とワークショップを通して、「ことばによる伝達」と「見ることによる伝達」の差異を把握する。学習のポイントは視覚的伝達を他者と「共有」することである。

・コンピュータ表現 [蝶課題]

アイデアを画像にするという課題を通して、コンピュータによる表現を学習する。

① オンラインプラス [準備] ー面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

* 課題については学習指導書『グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ 2019年度』を必ず参照すること。

授業計画

教科書及び学習指導書による。

[通信授業]

「オリジナル・パレット」と「色と文字の構成」の制作。

[面接授業]

講義及び、ピクトグラム、コンピュータグラフィックスの制作。

[通信授業]

動物園のバナー・コースターのデザイン制作。

成績評価の方法

[通信授業] 通信授業では、提出作品の総合評価とする。

[面接授業] 面接授業では、制作プロセス、全体講評と作品の総合評価とする。

履修条件及び履修年次	<p>[履修年次] 1年次</p> <p>[履修条件] なし</p> <p>[備 考] デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース指定科目。</p> <p>コミュニケーションデザインコースへの進学希望者は、1年次に履修すること（2年次編入学生は2年次）。コミュニケーションデザインコース3年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。</p> <p>スクーリングではコンピュータ（Macintosh）、グラフィック系ソフト（Adobe Illustrator、Photoshop）を使用する。</p> <p>初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「コンピュータリテラシーⅢ」を先に受講することが望ましい。</p> <p>スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（コミュニケーションデザインコース進学希望者を除く）。</p> <p>オンラインプラス（Webで行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。</p>
教材等	<p>教科書：白尾隆太郎監修『graphic elements グラフィックデザインの基礎課題』（武蔵野美術大学出版局 2015年）</p> <p>『PCCS ハーモニックカラーチャート 201-L』（日本色研）</p> <p>学習指導書：『グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）</p>
その他	面接授業について：グループディスカッション・発表を行う場合がある。

1030 | グラフィックデザイン基礎 II

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

白尾隆太郎教授、石垣貴子講師、木多美紀子講師、福井政弘講師、山口弘毅講師、深澤涼子講師、高崎葉子講師

授業の概要と目標

文章の持つ機能と視覚的情報の持つ機能を理解する。さらにタイポグラフィにおける文字の視覚的側面を考察することにより、言葉と視覚表現の関係を考える。

また写真などの視覚的要素を言葉を使わないメッセージとして捉え、ビジュアルな表現だけを使って、他者にメッセージを伝えることを学ぶ。それらは、言語の領域を越え国際的なコミュニケーションへのステップとしてあらゆる人々に共通の理解を求めるグラフィックデザインの基礎と言える。

課題の概要

○通信授業課題 1「ビジュアル・カルタ」

50音で始まるキーワードを44個考え、45×60mmの写真でそれぞれのキーワードを撮影する。44枚の写真を台紙に貼り提出する。また、一つのキーワードを5枚の写真で表わし、構成する。

○通信授業課題 2「ビジュアル・オピニオン」

今までに学んだ図像・地図・イラストレーション・写真・コンピュータ表現などの技法を総合し、日常生活や社会問題に対する意見を言葉を使わずに的確に他者に伝える。

○面接授業課題

・「文字組」

あたえられた文章にタイトルを付け、コンピュータを使って組版、文字組として完成させる。

①P オンラインプラス [準備] —面接授業事前説明動画配信

Webキャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

・「ダイアグラム」

目には見えない人の歴史や生様を資料をもとにデザインする。

①P オンラインプラス [準備] —面接授業事前説明動画配信

Webキャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

*課題については学習指導書『グラフィックデザイン基礎 I・II 2019年度』を必ず参照すること。

授業計画

教科書及び学習指導書による。

[通信授業]

50音で始まる44個のキーワードを44枚の写真構成として制作。また、一つのキーワードを5枚の写真で構成する。

[面接授業]

文字組・ダイアグラムの制作。

[通信授業]

今までに学んだグラフィック表現を活用した「ビジュアル・オピニオン」の制作。

成績評価の方法

[通信授業] 通信授業では、提出作品の総合評価とする。

[面接授業] 面接授業では、制作プロセス、全体講評と作品の総合評価とする。

履修条件及び履修年次	<p>[履修年次] 2年次</p> <p>[履修条件] 「グラフィックデザイン基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。</p> <p>[備考] デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース指定科目。</p> <p>コミュニケーションデザインコース進学希望者は2年次に履修すること。コミュニケーションデザインコース3年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。</p> <p>「グラフィックデザイン基礎Ⅰ」を同時に履修する場合は、「グラフィックデザイン基礎Ⅰ」のスクーリングを先に受講すること。</p> <p>スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（コミュニケーションデザインコース進学希望者を除く）。</p> <p>オンラインプラス（Webで行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。</p>
------------	---

教材等	<p>教科書：白尾隆太郎監修『graphic elements グラフィックデザインの基礎課題』 （武蔵野美術大学出版局 2015年）</p> <p>学習指導書：『グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ 2019年度』 （武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）</p>
-----	---

1040 | 情報システム基礎Ⅰ

4単位（通信授業2単位・面接授業2単位）

清水恒平准教授、太田守重講師

授業の概要と目標

情報システムとは、与えられた問題を解決する方法を考えて、必要なデータを収集し、管理し、処理し、交換し、結果として価値のある情報やものを提供する仕組みである。今日では、スマートフォンやタブレットによるソーシャルネットワークが我々の生活になくてはならないものになっており、我々自身も大きな情報システムの一部になっているといえよう。

情報システムの中核には、多くの場合、コンピュータと、それを、一定の目的のために処理させるソフトウェアがある。この科目では、ビジュアルデザインやアートに向けたプログラム言語として知られている Processing を取り上げる。この言語は、MIT の Casey Reas と Ben Fry が開発し、今日では、多くの人々に使われている。履修者はこの言語を学ぶことを通じて情報システムの基礎を学び「デザインする、もしくはデザインさせるシステム」の制作とはなにかについて、基礎的な理解を目指すことになる。

課題の概要

○面接授業課題

前半 Processing の書法を学びながら、コンピュータの仕組みやデジタルデータについて理解し、「フォーム」と「カラー」をテーマとしてアプリケーション作成に不可欠な基礎知識を学ぶ。

後半 「配置」と「変形」をテーマとして学習するとともに、これまでに学んだスキルを使ってビジュアルアート作品を描画するためのプログラムを自主開発する。

○OLP オンラインプラス [中間] —BBS 上での中間アドバイス

Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスを行う

○通信授業課題1

2つのプログラム及びそのプログラムを使って静止画作品を作成する。提出物は、プログラム解説、プログラム及びデータ、描画した作品のコピー。

○通信授業課題2

動きを伴う2つのプログラムを作成する。提出物はプログラム解説、プログラム及びデータ。

授業計画

通信授業課題は面接授業の後で取り組むこと。また、面接授業の前に、教科書に目を通しておくことが望ましい。少なくとも第4章までの例題は実行しておくことよい。

成績評価の方法

面接授業及び通信授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1年次

[履修条件] インターネットに接続したパソコンを保有すること。

[備考] デザイン情報学科デザインシステムコース指定科目。受講者はプログラム未経験者でもかまわないが、「コンピュータ基礎Ⅰ」修了程度のスキルをもっていると、より分かりやすいであろう。デザインシステムコース進学希望者は、1年次に履修すること（2年次編入学生は2年次）。デザインシステムコース3年次編入学生は必修ではないが、プログラミング経験がない学生は、まず「コンピュータ基礎Ⅰ」を履修し、さらにこの科目を履修するとよい。スクーリングでは Apple 社の Mac を使用する。受講希望者が多数のときは、デザインシステムコース進学希望者を除いて、人数を制限する場合がある。通信授業課題は、WEB キャンパスを通じてオンライン提出していただく。

教材等

教科書：Casey Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』
(オライリージャパン 2011年)

学習指導書：『情報システム基礎Ⅰ・Ⅱ 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

その他

参考文献：Casey Reas, Ben Fry 著、中西泰人監修

『Processing: ビジュアルデザイナーとアーティストのための Processing 入門』
(ビー・エヌ・エヌ新社 2015年)

面接授業について：随時、グループ・ディスカッションを行う。

1050 | 情報システム基礎 II

4 単位（通信授業 2 単位・面接授業 2 単位）

清水恒平准教授、植木基博講師

授業の概要と目標

情報システム基礎 I では、ユーザーの入力に対するアウトプットの方法を様々な学んできました。マウスやキーボードからの入力は、なんらかのアルゴリズムによって別の形でアウトプットされます。他方、現実の情報システムでは、蓄積されたデータを別の形へと加工しアウトプットすることも多々あります。情報システム基礎 II では、実際のデータを利用して、データを情報へと変換し表現することを学んでいきます。

面接授業では、あらかじめ用意したデータを利用し、データベース管理システムによる抽出と、Processing によるビジュアライゼーションの手法を学びます。通信授業では、インターネット上で入手出来るデータにどのようなものがあるかを調査し、その調査結果から得られたデータを利用して、情報表現を試みます。

課題の概要

○通信授業課題 1

オープンデータ、API によるデータの取得方法の調査

○面接授業課題

データベース (SQLite) を利用したビジュアライゼーション

●オンラインプラス [中間] —BBS 上での中間アドバイス

Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスを行う

○通信授業課題 2

外部データを利用した情報表現

授業計画

通信授業課題 1 は面接授業の前に取り組むことが望ましい。

成績評価の方法

面接授業及び通信授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2 年次

[履修条件] 「情報システム基礎 I」の単位を修得しているか、同時に履修すること。同時に履修する場合は「情報システム基礎 I」のスクーリングを先に受講すること。

[備 考] デザイン情報学科デザインシステムコース指定科目。

デザインシステムコース進学希望者は、2 年次に履修すること。デザインシステムコース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

受講するにあたり、「コンピュータ基礎 I」の修得に相当するスキル、情報検索や電子メールが利用可能なインターネット環境を有すること。

「情報システム基礎 I」を同時に履修する場合は、「情報システム基礎 I」のスクーリングを先に受講すること。

スクーリングでは OS: Macintosh のコンピュータを使用する。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（デザインシステムコース進学希望者を除く）。

PDF 形式で保存可能なレイアウトソフトまたはワープロソフトなどのソフトウェアと、それを利用できるコンピュータを所有するか、もしくは利用できること。

面接授業の前半では Processing を使用する予定。Processing は「情報システム基礎 I」で学ぶ。授業ではプログラミングの基礎的なレクチャーは行わないので、不安な人は事前に Processing を予習／復習して、基礎的な内容を習得しておくこと。

公式サイト (<https://processing.org/>) やプログラミング学習サイト「ドットインストール」(https://dotinstall.com/lessons/basic_processing) などをお勧めする。

教材等

教科書：Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』

(オライリージャパン 2011 年)

学習指導書：『情報システム基礎 I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

その他

参考文献：Casy Reas, Ben Fry 著、中西泰人監修

『Processing: ビジュアルデザイナーとアーティストのための Processing 入門』

(ビー・エヌ・エヌ新社 2015 年)

面接授業について：グループワークを行う。

1060 | デザインリサーチ I

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

田村裕教授、金子伸二教授、小池利佳講師、白井新太郎講師

授業の概要と目標

「考現学」の手法を応用して、日常の生活風景や風俗・人物行動などの観察記録を行い、特徴的な傾向やタイプ（類型）を比較分析して、新たな発想を得たり、現代の生活文化への理解を深めていく。本科目で行うデザインリサーチとは、特定の製品開発を目的とした調査ではなく、人間の行動や身の回りの状況を調査するものであり、目の前の現象を様々な角度から観察・分析することで、創造的な発想にいずれ結びつくような「新鮮な発見や気づき」を得ることに目標がある。

課題の概要

○通信授業課題

「『通行人』の考現学的調査」

自分の住む街（市区町村）で任意の道を選び、そこを通る人々の風俗・行動・属性などを考現学の手法を用いて調査して、その結果を B4 判の白無地用紙 1 枚以上に「調査報告書」としてまとめる。何を調査するか＝調査テーマ・調査対象（調査項目）は自分で設定。調査結果は、スケッチ、図解、グラフ、表などを用い、第三者にもわかりやすく表現する。

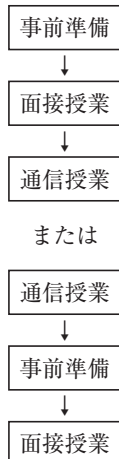
○面接授業課題

「身近な生活環境における『現代の日本らしさ』調査」

「事前調査」として、身近な日常生活において、街の風景や風俗、習慣、人の行動などに見いだされる「現代の日本らしさ」を調べておく。調査したデータや写真あるいはスケッチなどを面接授業時に持参して、その調査結果や分析から気づいた点を B4 判の「調査報告書」1 枚以上にまとめる。調査結果は、スケッチ、図解、写真、グラフ、表などを用い、第三者にもわかりやすく表現する。

* 課題については学習指導書『デザインリサーチ I・II 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画



[面接授業]

第 1 日 午前：前提講義

・考現学と課題についての講義、調査報告書制作のための事前調査の各自概要報告、グラフ表現の方法など

午後：調査報告書制作

第 2 日 調査報告書の作成と完成

OLP オンラインプラス [結果] —BBS 上での面接授業振り返り

Web 上にアップロードした完成作品をもとに、ディスカッションを行う。

[通信授業]

教科書の目次より

第 1 章 今和次郎・考現学の方法を起点として

1. 考現学への道のり 2. 考現学の誕生 3. 考現学とは何か 4. 考現学の手法

第 2 章 考現学の復興と継承

1. 1970、80 年代の考現学再認識と研究グループの誕生
2. 1990 年代以降・考現学の系譜、その多彩な広がり

第 3 章 考現学の手法を生かしたデザインリサーチ

1. 武蔵野美大の学生によるフィールドワーク
2. 調査研究事例紹介 (a) 街並みの記録と都市の調査 (b) 風俗調査 (c) 人物行動調査 (d) その他

成績評価の方法

面接授業及び通信授業における各々の報告書制作物で総合評価。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1年次

[履修条件] なし

[備考] 芸術文化学科造形研究コース・文化支援コース指定科目。

造形研究コース・文化支援コース進学希望者は、1年次に履修すること。(2年次編入学生は2年次)。造形研究コース・文化支援コース3年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある(造形研究コース・文化支援コース進学希望者を除く)。

オンラインプラス(Web上で行う面接授業補助プログラム)を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

教材等

教科書：田村裕、白井新太郎、中尾早苗『デザインリサーチ』(武蔵野美術大学出版局 2002年)

学習指導書：『デザインリサーチ I・II 2019年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年)

1070

デザインリサーチ II

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

田村裕教授、金子伸二教授、中尾早苗講師

授業の概要と目標

現在、私たちの住む都市は急激な変貌を遂げている。その中で、変わらない本質的なものを発見するとともに、その背景を理解する必要がある。

デザインリサーチ II では、都市景観に関する問題を多角的に捉えるとともに、街並み景観調査を切り口として都市景観のあり方を分析・考察し、各自の「見方」を構築することを目的としている。

課題の概要

○面接授業課題

「街並み景観調査—過去・現在・未来—1」

過去とは自身の生育地、現在とは今の居住地、未来とは今後住んでみたい街を選び、街並み景観調査を行う。面接授業では、次の通信授業課題での本調査を行う前に各自のテーマを設定し、調査の目的、調査の方法等を考察して、A3 用紙 3 枚程度にまとめ発表する。事前準備として 3 地区の写真、概要等の資料を収集しておく。テーマ、未来の街の選定方法等については、各自に合わせて指導する。面接授業を通して多様な捉え方、プレゼンテーションの方法を学ぶ。

○通信授業課題

「街並み景観調査—過去・現在・未来—2」

面接授業課題に基づいて通信授業課題では 3 地区の本調査を行い、各地区の特徴を捉え比較する方法を学ぶ。まとめでは、自身の街の「見方」を考察しよう。街並みは多様な構成要素の集合体であり、調査結果からは気付きや発見が得られるであろう。

*課題については学習指導書『デザインリサーチ I・II 2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画



面接授業課題に合格してから通信授業課題へ進みます。

[面接授業]

事前の準備（3 地区の写真、概要、資料収集等）。

第 1 日 前提講義、課題説明、制作

第 2 日 制作、発表及び講評

○LP オンラインプラス [準備] —面接授業参考資料ダウンロード

Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて面接授業参考資料をダウンロード配付する。

[通信授業]

教科書の「デザインリサーチ II」の第 3 章「中央線沿線の街並み景観調査」、第 4 章「歴史性、地域性から見た街並み景観調査」及び、学習指導書の参考作品 6、7、8 を参照すること。

成績評価の方法

面接授業、通信授業における課題作品を総合評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2 年次

[履修条件] 「デザインリサーチ I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] 芸術文化学科造形研究コース・文化支援コース指定科目。

造形研究コース・文化支援コース進学希望者は 2 年次に履修すること。造形研究コース・文化支援コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

「デザインリサーチ I」を同時に履修する場合は、「デザインリサーチ I」のスクーリングを先に受講すること。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（造形研究コース・文化支援コース進学希望者を除く）。

オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

教材等

教科書：田村裕、白井新太郎、中尾早苗著『デザインリサーチ』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『デザインリサーチ I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）